

New Japanese Standard

「LIBERO」ブランドがコンバーチブル&エクスプレスでボルボIPS搭載モデルを投入してきた。過酷なビッグゲームトーナメント参戦に耐えうるハイスペックとIPSとの相乗効果は、未開拓なゾーンにある中で、ひとつのマリンカテゴリーの幕開けといっても良いだろう。ビルダーとプロダクションが一体となった、「オーナーの意思表示」を洋上の作品とし、ハード・ランニングさせる。

text: Yoshihiro Ajiro

photos: Hiroyuki Kashioka



LIBERO 37 Convertible

新しい時代の到来を予感させる フィッシャーと新世代ドライブの融合



躍動感に溢れる航行性能が分かりたいだけなら、ステールカメラマンに、「面白そうだから撮らせてあげば良かった」と言わせるほどのアクティブなターン。

「LIBERO」シリーズをご存知だろうか？ スポーツセダン・エクスプレッス・コンバーチブル・そしてスポーツツークーペ、タイプモデルをラインアップし、今現在32ftから62ftまでがプロモートされ、大阪は堺に本社を置く「クリエイション」がブランドプロダクションを行い、ファクトリーの地は、かの造船王国「台湾」である。「LIBERO」のコンセプトは「オンリーワンのカスタマイズ」。設計段階からオーナーは重要なポジションに置かれ、自らの愛艇をコーディネートして行き、進行状況に応じて、二度三度と台湾ファクトリーに泊るオーナーも多い。これは成川から僅か3時間半、関西からも2時間少々フライトで舞い降りることが可能な、台湾の地の利という点は大きい。自らの意思表示が形となってゆく過程、進水を迎えフローティング&シートリアルをする瞬間は、オーナーとして至福の時となるであろう。クリエイション社はユーザーから、細部に至るまでのオーダーメイドに対応したサポートを、長年続けているのである。

ファクトリーのある造船王国台湾での、数々の新造艇はヨーロッパ、オセアニア、北米向けのモデルが主流となり、そのクオリティー

について、高い評価を世界中から受けていることは、ボート業界ではもはや常識ですらある。今回シートリアルを試みるLIBERO37コンバーチブルは、ビッグゲームへのエントリーもこなせる艇体に、ボルボIPS500を搭載した戦闘モデルであり、いよいよトーナメントシーンでも、IPS旋風がやって来るのかと思うと、シートリアルが待ち遠しい限りであった。

クリエイション社の和歌山店がある、「和歌山シティ・マリーナ」。当日の天候は晴れ、風光明媚な和歌浦湾は穏やかに我々を迎え入れてくれていた。ホワइटの光彩が放たれる新型LIBERO37コンバーチブルは、ボリュームのあるボディに、緩やかな角度でパウからブリッジへ傾斜してくるラインを活かしたシェイプが、美しいコンバーチブルスタイルを一層際立たせている。トランサムステップから乗り込み、最初に行ったのは、手の中でハルを軽く叩いてみる。低音で跳ね返るその感触に、ハルの質や剛性感を実感させられ、続いてチェックしたガンネルの裏側の仕上げも怒り無く、綺麗にエッジ処理されているあたりに、台湾メイドのクオリティーの高さを感じ

させられた。アフトデッキにはセカンドステーションが設けられ、両舷のスロットルとボルボIPSシステムのジョイスティックが備わる。ビッグゲームに少人数で出かけ、ひとたびファイトが始まれば、キャプテン要らず？ アングラーがミールして、デッキハンドがIPSジョイスティックで平行移動もなんのその、船位を自由自在に操りファイトする。そんなトーナメントシーンに近い将来やって来るのではないだろうか。

エンジンをスパークし暖気を済ませると、一体成型のステップをヘルムまで上がり、アクティブにさせたジョイスティックを使いバースからスルリと抜け出す。ベンチレーションを開放し、フレッシュエアがヘルムステーションを巡る和歌浦湾沖合い3マイルでトリムをセッティング。燃料タンク85%、3500rpmで34ノットのトップスピードを航海機器で確認。風いざ海故、フレア・ラインはドライのままだが、力強いトルクに押し出されながら滑走していることが、手に取るように判る。今までの経験から、限られた時間内でのIPS搭載艇のポテンシャルチェックの最重要項目、「急旋回時のテールスライド」

を確かめるべく、その要求をフネに伝える。ステアリングを斬られたIPSドライブユニットが俊敏に舵角を増し、フレア・ラインが仕事を始めると、船底は一切を叩くことなく、ピタリと軸先を決めてゆく。IPSドライブは過負荷を強いられることなく回転数の息遣いは皆無、ローリングピッチも不安定な姿勢に持ち込まず、一定のバンクを保ったまま爽快に旋回してゆく。まさにIPSが伝家の宝刀としてパフォーマンスを発揮し、卓越したウェイトバランスであることをLIBERO37コンバーチブルは証明してくれた。「自分で造ったフネに乗る」。少年時代、童心に任せて、身近な素材で海や川で筏を作って浮かべた経験を持つ方も多いことだろう。自らがプロデュースしたボルボIPS搭載コンバーチブルモデルを、トーナメントスペシャルとして総無尽に活躍させてみる。羨ましい限りの、夢の実現が「LIBERO」にはある。PB.



全長11.98メートル以上のボリュームを醸し出せるシルトトップ、シアールラインは緩やかにシェイプされる。



フルオーニングが誇るハードトップ。ナビゲーター、チェアとヘルムギアの高さが異なるには訳がある。パッセージャーを控める。パートナーの姿も合わせて、オーダーに対応しているのはLIBEROならでは。



搭載されるIPSは500。LIBEROシリーズはスタンダードでは400であるが、オプション設定で600まで搭載可能。ビッグゲームノイトのためのスペースと整備は、完全に揃えられている。



絶やかな光沢のある上品なアメリカンチェリーウッドがふんだんに使われたキャビンスペース。1冊レジャーソファーに囲え付けられるLEDのダウンライティングは流石の逸品だ。



Wベッドが用意されるオーナーズルーム。ビーム一杯にレイアウトされたベッドは広く、安眠が約束される。



シングルベッドが2段並列され、ゲストルーム。大人2人がゆったりとくつろぐスペースでステイできる。



SPECIFICATIONS . . . LIBERO 37 Convertible

- 全長 11.98m
- 全幅 3.80m
- 重量 10,000kg
- 燃料タンク容量 1,200L
- 清水タンク容量 700L
- エンジン 2×Valve IPS 500
- スタンダード価格 4,751万2500円
- 問い合わせ先 クリエイション TEL:072-723-5884